

1 題 材 B鑑賞(1)「アートであそぼう」

2 目 標

- 形や色，材料や表し方等の類似点や相違点などに目を向けながら，アートゲームに進んで取り組もうとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- 形や色，材料や表し方等の気付きから，自分の考えをまとめ，友達との話し合いを通して，自分なりの見方や感じ方を深める。 (鑑賞の能力)

3 題材の学習について

第5学年及び第6学年の目標と内容のB鑑賞(1)アに、「表現の意図や特徴をとらえ，見方や感じ方を深めるようにすること。」とあり，鑑賞活動においては，児童の見方や感じ方を深めることが大切であることが示されている。加えて解説には，児童の見方や感じ方を深めるために「いろいろな角度から見たり，直感的に感じたこと，思ったことを言葉にしたり，作品の意図を想像したり，同じテーマの他の作品と見比べたりするなどしながら，深めていくようにすること。」と具体的な活動が示されている。

本学級の児童の，鑑賞活動における学習カードの記述を，作品の形や色，材料や表し方等について，何を視점에鑑賞していたか分析した。その結果，児童の視点は色に偏っており，作品の内容や，作者の意図に迫るような記述は少なかった。これらの実態から，本学級の児童は作品鑑賞の視点が少なく，作品の内容や作者の意図をとらえた見方や感じ方が十分に深まっていなるととらえた。

そこで本題材では，アートゲームを活用した鑑賞活動を行い，児童の見方や感じ方を深めさせたいと考えている。アートゲームは絵画作品をカード化したものを用い，ゲーム方式で遊びながら鑑賞の方法を身に付ける活動である。

本題材では，アートゲームを活用した鑑賞活動を実践するに当たり，三つの取組を行い，児童の作品鑑賞の視点を広げ，見方や感じ方を深めたいと考えている。一つ目の取組では，ゲームで使用する作品（アートカード）から，形や色，材料や表し方等の視点で類似点に気付きやすいように作品を精選する。また，児童自身が製作した作品を取り入れることにより，体験した技法から類似点や相違点等の気付きができるようにする。二つ目の取組では，児童が前時の学習で体験した，様々な見方や感じ方を生かし，より深く作品をとらえられるようにするために，ゲームの順番を構成する。三つ目の取組では，児童が自分の考えをまとめ，自分なりの見方や感じ方の深まりを振り返り，話し合いで友達の考えと自分の考えを比べたり，理解したりする場を設定する。これらの取組において，児童は作品を形や色，材料や表し方等から類似点や相違点などに気付き，気付いたことをもとに自分の考えをまとめる。さらに自分の考えや友達の考えを比べ，理解したり違いが分かったりする。このような活動を通して，

児童の作品鑑賞の視点を広げ、作品の内容や作者の意図に迫れるような、自分なりの見方や感じ方を深めさせたい。

4 学習計画・評価計画(2時間扱い)

時	学習過程	学習活動・内容	評価規準
1	出見比 会よべ う	①作品を比べて見る。 ②気づきを学習カードに記入する。 ③児童の気づきを発表する。	形や色、材料や表し方の類似点や相違点などに目を向けながらアートゲームに進んで取り組もうとする。 (観察)
	気仲 付間 く分 ・け	①作品を比べて見る。 ②仲間分けの視点を考えて話し合う。 ③仲間分けをする。 ④グループごとに分け方を発表する。	
	深七 め並 るべ	①作品の類似点を探し説明する。 ②友達の説明を聞き、納得したら拍手をし、疑問があれば質問する。 ③並べた作品を見て振り返る。	
	まと め返 るり	自分なりの気づきを学習カードに記入して発表する。	
2	深神 め経 る衰 弱	①作品の類似点を探し、説明をする。 ②友達の説明を聞き、納得したら拍手をし、疑問があれば質問する。	作品を比べて見ながら形や色、材料や表し方等をもとに特徴に気づき、自分の考えをまとめる。 (観察)
	まと べ め る鑑 賞	①作品を二枚選択する。 ②気付いたことや考えたことを学習カードに記入する。 ③お互いの気づきや考えを発表し合い、話し合いをする。 ④発表と話し合いをもとに、自分の考えをまとめる。	形や色、材料や表し方等の気づきから、自分の考えをまとめ、友達との話し合いを通して、自分なりの見方や感じ方を深める。 (観察, 学習カード)

5 第1時の学習


(1) 目標

形や色、材料の類似や相違などに目を向けながらアートゲームに進んで取り組もうとする。

(2) 準備・資料

教師…プロジェクター, コンピュータ,
パワーポイント資料, アートカード, マイク, 学習カード
児童…筆記用具

(3) 展開

学習活動・内容	指導の手立て (○全体・個) ⑧ 評価
<p>1 本時のねらいと活動内容を知る。 自分らしい見方を発見しよう。</p>	<p>○ 本時の活動内容を知らせ学習の見通しをもたせる。</p>
<p>2 見方やとらえ方を体験する。 (比べて見よう)</p> <p>比べて見よう (パワーポイント使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2枚の作品を見て、その類似点を学習カードに記入する。 	<p>○ 児童が色々な視点で作品の特徴に気付けるように、形や色、材料や表し方の視点で類似点の多い作品を提示する。</p> <p>○ 児童の気付きを発表させ、賞賛することにより自信をもって活動に取り組みせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに気付きが書けない児童には、作品を見る視点を記したヒントカードを示して個別に助言して気付かせる。
<p>3 アートゲームをする。</p> <p>(1) 仲間分けゲーム</p> <p>仲間分け (アートカード使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合って仲間分けの視点を決める。 ・ 作品を自分たちの視点で仲間分けする。 ・ 分けられた作品を見せて仲間分けの視点を説明する。 ・ 説明してみんなが納得すれば拍手する。 ・ 疑問点があれば質問する。 <p>(2) 七並べゲーム</p> <p>七並べ (アートカード使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カードを5枚ずつ配る。 ・ 余ったカードから一枚、場の中央に置く。 ・ 順番を決めて順に手札から場に並んでいるカードの隣 (横だけでなく縦に置いてもよい) に置き、類似点を説明する。 ・ 説明を聞き納得すれば拍手をして次の順番にまわる。 ・ おけるカードがない場合は余ったカードと交換して次の順番にまわる。 ・ 全員がカードを出し終わったら並べたカードを見て振り返る。 	<p>○ 仲間分けの視点が決めやすいように、人物画、風景画等の作品を多く選択して行わせる。さらに、話し合いが活性化するように、仲間分けの判断が難しいものを数枚混ぜておく。</p> <p>○ 話し合い活動では、特定の児童に発言が偏らないように、マイクを用意し、マイクを持っている児童が発言するルールを決め、一人一人が発言できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間分けゲームで、つまずきの見られる児童には、個別に問いかけ、仲間分けの視点を助言する等して活動に取り組みせる。 <p>○ これまでのアートゲームによって体験した見方や感じ方を、七並べゲームで生かせるように、形や色、材料や表し方の視点を意識させてゲームに取り組みせる。</p> <p>○ 一つの視点だけでなく、いろいろな視点で鑑賞できるように助言することで、見方や感じ方を広げるようにする。</p> <p>○ 各グループの人数を4, 5人に抑えることで、一人一人の説明が充分行えるようにする。</p> <p>○ 並べ終わったカードを見てどのように関係があるのかを振り返り、それぞれの気付きを楽しむ。</p>
<p>4 お互いの感想を発表し合い、活動の自己評価をする。</p>	<p>○ アートゲームの感想を発表し、お互いがどのように感じたかを知り、自分や友達の気付きを学習カードにまとめる。</p> <p>⑧ 形や色、材料や表し方の類似や相違などに気付き、アートゲームに進んで取り組む。 (造形への関心・意欲・態度)</p> <p><努力が要する状況の児童への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アートゲームに進んで取り組めない児童には、形や色、材料や表し方等の類似に気付きやすい作品を提示し、教師と共に作品の特徴に気付かせながら、児童自身で気付けるようにしていく。

6 第2時の学習

(1) 目標

形や色，材料や表し方などの気付きから自分の考えをまとめたり，友達と話し合ったりしながら自分なりの見方や感じ方を深める。

(2) 準備・資料

教師…アートカード，作品シール，学習カード

児童…筆記用具

(3) 展開

学習活動・内容	指導の手立て（○全体・個） ⑩ 評価
<p>1 本時のねらいと活動内容を知る。</p> <p>神経衰弱ゲームをして似ているところを探そう。</p>	<p>○ 前時の活動を振り返り，児童の気付きを紹介し，本時の活動内容との関連性を知らせることにより，本時の学習の見通しをもたせ，児童の学習意欲を高める。</p>
<p>2 アートゲームをする。</p> <p>神経衰弱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを裏返しにして並べる。 ・順番を決めて順にカードを2枚めくって類似点を説明する。 ・他の児童は説明を聞き納得すれば拍手をし，納得できない場合は質問をする。 ・類似点を説明できたカードはその児童のものになり，説明できなければパスとしてカードを裏返して次の児童の順になる。 ・たくさんカードを獲得した児童の気付きや発見を紹介し賞賛する。 	<p>○ 事前に編成したグループごとに学習準備をしておくことで活動に入りやすいようにしておく。</p> <p>○ ルールの確認をする際に，前時の作品からの気付きを発表させ，形や色，材料や表し方の視点を意識して活動に取り組みさせる。</p> <p>○ カードの類似点に気付きやすように事前に人物画，風景画，抽象画等のグループに作品を分けておき児童の実態に合わせてカードを選択して配る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか類似点に気付けない児童には，個別にヒントカードで作品を見る視点を示し，類似点等に気付けるようにする。 <p>○ 獲得したカードの枚数をもとに，等質グループになるように再編成し，一人一人が活発に活動できるようにする。</p>
<p>3 自分なりの気付きを学習カードに記入して発表し合う。</p> <p>自分なりの気付きを学習カードにまとめて発表しよう。</p>	<p>○ 作品を比較させながら形や色，材料や表し方等の気付きの視点を記入させる。また，その気付きに対する友達の意見や，友達の気付きや考えから，自分の考えを再度振り返り記入できるようにする。</p> <p>○ 学習カードに，児童が選んだ2枚の絵の作品シールを貼ることにより，気付きを文章や記号，図等で，具体的に記述できるようにする。</p>
	<p>⑩ 形や色，材料の相違や類似などからの気付きや考えをまとめて発表し合い，友達の考えを理解したり比較したりして，自分の考えをまとめる。 (鑑賞の能力)</p>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 学習カードの記入や話し合い活動の様子を紹介し，児童の気付きや考えを再確認する。</p> <p><努力を要する状況の児童への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか類似点を発見できない児童には作品を見る視点に気付かせるようにヒントカードを提示して助言する。